



山武地域の生育状況

山武地域の水稻は植付後の強風により生育が遅れたほ場が多くありましたが、5月の気温が平年より高かったことにより生育が早く進み、現在おおむね平年並みで推移しています。ただし、ジャンボタニシが多く生息するほ場では、食害により茎数が減少しているほ場も見られます。

また、移植後の強風による植え傷みからうまく回復できなかったほ場においては、枯れにより植え直しが行われたところもあります。

これから気温が上昇し、茎数が大幅に増加します。茎数が増えると風が通りにくくなり、病害が発生しやすくなります。特に高温年では紋枯病が発生しやすくなりますので、過去に紋枯病が発生したほ場や多肥栽培を行う品種のほ場では紋枯病の発生に注意しましょう。

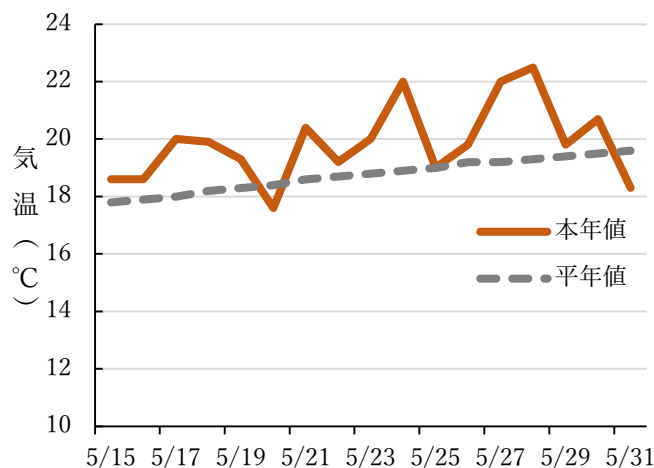


図1 日平均気温の推移(アメダス、横芝光)

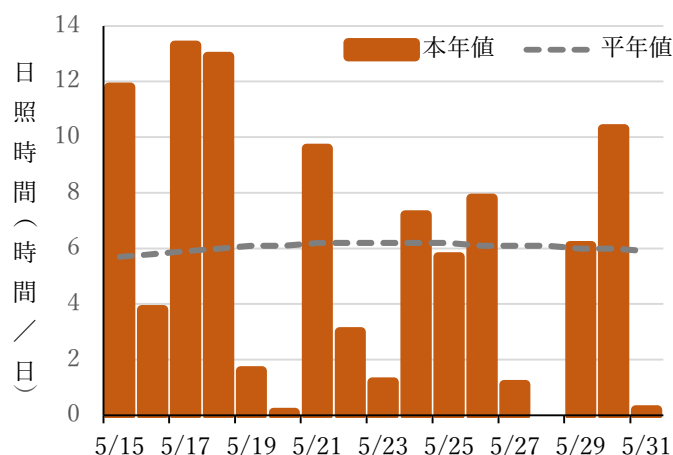


図2 日照時間の推移(アメダス、横芝光)

幼穂形成期予測とこれからの栽培について

早生品種では6月中旬頃から幼穂形成期を迎える予測となっています。上記の紋枯病は幼穂形成期を過ぎたあたりから病斑が目立ち始めますので、幼穂形成期を迎えたほ場では注意して観察しましょう。また、穂肥を行うほ場では幼穂形成期の時期によって穂肥施用の時期を決めることになるため、予測を目安にして自身のほ場の幼穂形成期の把握をしましょう。

幼穂形成期予測(6月3日現在)*

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	6/13	6/14	6/22	6/21
5/1	6/20	6/21	6/29	6/29
5/15	6/28	6/29	7/7	7/7

*幼穂形成期とは幼穂の長さが1~2mmになる時期のことをいいます。

*予測日は水稻生育予測システム「でるたTM」により、アメダス横芝光のデータを用いて予測しています。移植時の苗の条件、ほ場の条件、予測を行った日以降の気象条件により誤差が出る場合があります。

生育調査結果(5月30日時点)

*本年値の()内は平年比(過去10年)を示しています。

*葉色は、カラースケール(CS)による数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

コシヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
東金市 4/28 移植	本年	35.4 (99%)	287 (88%)	7.8(100%)	5.1(103%)
	前年	35.3	274	7.3	5.0

ふさこがね

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 5/3移植	本年	28.9(102%)	255(100%)	6.4(99%)	5.1(103%)
	前年	25.6	139	5.5	4.5

ふさおとめ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 4/30移植	本年	26.9(93%)	295(88%)	7.8(97%)	5.0(100%)
	前年	23.3	198	6.4	4.7

アキヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 4/25移植	本年	40.4(100%)	437(145%)	7.7(96%)	5.2(103%)
	前年	35.6	318	8.1	5.2

夢あおば

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 5/18移植	本年	22.4(86%)	148(151%)	4.9(98%)	—
	前年	22.4	88.7	5.9	—

千葉県農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所 成東育成地による生育調査結果(5月30日時点)

*調査は全て山武市で行われています。

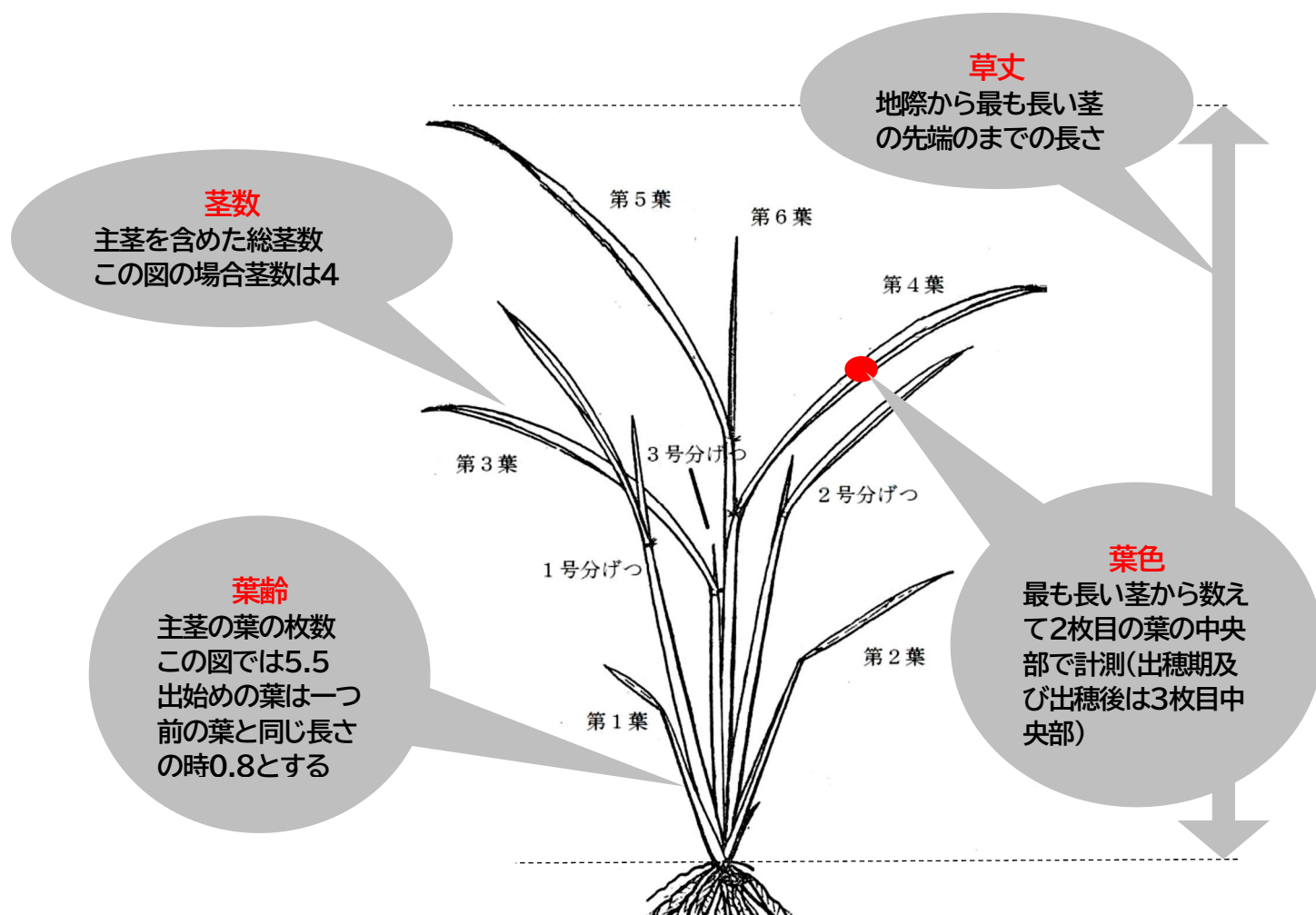
*本年値の()内は平年値(過去10年)との差を示しています。

*葉色は、カラースケール(CS)による数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

品種・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
コシヒカリ 4/25移植	本年	42.9(121%)	433.2(100%)	8.3(104%)	5.3(107%)
	前年	37.9	545	8.3	5.2
ふさこがね 4/25移植	本年	37.7(117%)	454.9(94%)	8.3(98%)	5.4(102%)
	前年	31.6	493	8.6	5.5
ふさおとめ 4/25移植	本年	39.7(120%)	506.2(100%)	8.9(101%)	5.4(105%)
	前年	34.4	519	8.8	5.3
粒すけ 4/25移植	本年	38.5(114%)	440.7(95%)	8.7(101%)	5.6(101%)
	前年	23.7	219.6	6.3	5.5
粒すけ 5/15移植	本年	24.8(104%)	137.3(90%)	6.1(94%)	4.2(97%)
	前年	23.8	153	6.5	4.4

・データの見方(調査基準について)

以下の図を参考に、稲を観察し、調査地点の数値と比較してみましょう。



次回の発行は6月19日を予定しています。

今年の育苗を振り返って

今年の育苗については、気温の寒暖差が激しく、種子消毒・浸種での低温の影響により発芽不良や不揃いが多く見られました。

1 種子消毒～播種期

・種子消毒

温湯消毒では気温の低下により種もみ袋の中心部まで十分温度が上がっていなかったと見られる事例が発生しました。また、微生物農薬を使用した場合でも、10℃以下の低温や水分過多の状態であったために、中心部まで浸透しづらく効果が低減しました。

・浸種～播種期

浸種の積算温度不足によると見られる発芽不揃いや育苗箱表面での糸状菌の発生が多発しました。これは、浸種時期の3月上旬～中旬に最低気温がマイナスの時期が続いたことが原因であると考えられます。

また、播種時期の3月下旬～4月上旬にかけて気温の寒暖差が激しく、種子の発芽より糸状菌等の発生が顕著となり、発芽不良を招きました。

対応策として、種子消毒や浸種では必ず水温を確かめ、十分な薬液量や水量で行うことが必要です。また、種子が鳩胸状態となったことを確認してから播種作業を行うことが重要です。

2 育苗～植付期

・育苗期

気温の寒暖差が激しく、苗の徒長と葉先のヤケが見られ、反面、地温が上がらず発根不足も見られました。また、発芽よりカビの発達が早まり、発芽不良を引き起こした育苗箱も見られました。これは、播種直後に気温の低下により保温のために被覆期間を延ばした場合で多く見られました。

特に4月中旬以降は最高気温が20℃を上回る日が続き（アメダス横芝光）、日中のハウス内の温度が急上昇しやすい傾向にあり、コシヒカリ等徒長しやすい品種は急激な伸びが見られ、ムレ苗の状態も散見されました。

・植付期

4月中旬以降、気温が高い日が続き、苗の伸長が早まったことで黄色くなった老化苗を移植したほ場も散見されました。また、気温の上昇とともにスクミリンゴガイの活動も活発となりました。場所により、藻類の発生が著しいほ場もあり、深水ほ場では植付直後の苗株を覆うほ場もありました。



写真1 発芽不揃いが発生した育苗箱



写真2 カビの発生による発芽不良

〇両総用水の止水期間について

今年度の両総用水の止水期間は6月16日から6月30日までの予定です。